

# 平成30年4月 全国百貨店売上高概況

平成30年5月23日

## I. 概況

1. 売上高総額	4,565億円余
2. 前年同月比	0.7% (店舗数調整後/2か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	80社 220店 (平成30年3月対比-2店)
4. 総店舗面積	5,555,751㎡ (前年同月比:-3.2%)
5. 総従業員数	70,233人 (前年同月比:-3.9%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	9-11月 1.4%、10-12月 -0.1%、11-1月 0.1%、 12-2月 -0.9%、1-3月 -0.7%、2-4月 0.0%

[参考] 平成29年4月の売上高増減率は0.7% (店舗数調整後)

### 【特徴】

4月の売上高は0.7%増と2か月連続のプラスとなった。気温上昇による季節需要の高まりで春夏商材が活発に動いた他、為替や株価が安定的に推移した影響から、大都市を中心として、引き続きインバウンドと高額消費が高い伸びを示した結果、全国ベースで前年実績を上回ることができた。

顧客別では、インバウンド(シェア6.9%/42.9%増)が約316億円と、前月(約290億円)に続いて過去最高額を更新した一方、国内市場(シェア93.1%/1.5%減)は前年には届かなかった。

地区別では、10都市が2.5%増(9か月連続)と好調に推移している。大阪(9.9%増/16か月連続)をはじめ富裕層消費とインバウンド効果の高い6地区(札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡)で前年をクリアしたが、地方(10都市以外の地区)は3.6%減(12か月連続)と苦戦が続いている。

商品別では、化粧品(17.0%増)や美術・宝飾・貴金属(6.6%増)を含む雑貨が9.2%増(17か月連続)と好調さを維持し、売上構成比も全体の2割を超えた。身のまわり品もラグジュアリーブランドや、晴雨兼用傘・サングラス等の季節商材が好調で3.2%増(4か月連続)。衣料品は夏物好調の半面、重衣料が低調で、単価ダウンから1.3%減と前年に届かなかった。

また、食料品は、生鮮食品の高騰や花見需要の前倒しの影響により3.3%減となった他、家庭用品(4.3%減)も売場リースによる面積減などからマイナス基調が続いている。

### 【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「4月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、東・西日本で気温がかなり高かった。また、降水量は東日本日本海側でかなり多くなった。日照時間については、東日本太平洋側と西日本および沖縄・奄美が多かった。

(2) 営業日数増減 29.9日(前年同月比 ±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日( // ±0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数122店舗)

①増加した: 29店、②変化なし: 32店、③減少した: 61店

(5) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上(同上/有効回答数89店舗)

①増加した: 13店、②変化なし: 53店、③減少した: 23店

# 全国百貨店 売上高速報 2018年04月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ( )が調整前

地区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
<b>全国</b>	<b>456,542,946</b>	<b>100.0</b>	<b>0.7 ( 0.8)</b>
<b>10都市</b>	<b>324,320,371</b>	<b>71.0</b>	<b>2.5 ( 3.5)</b>
札幌	12,023,569	2.6	4.0
仙台	5,957,695	1.3	-2.1
東京	127,196,683	27.9	1.9
横浜	27,248,559	6.0	-0.8
名古屋	29,589,307	6.5	5.7
京都	19,355,444	4.2	4.1
大阪	66,835,977	14.6	9.9
神戸	11,248,635	2.5	-30.6 ( -4.2)
広島	9,003,753	2.0	-2.4
福岡	15,860,749	3.5	6.3
<b>10都市以外の地区</b>	<b>132,222,575</b>	<b>29.0</b>	<b>-3.6 ( -5.2)</b>
北海道	1,223,734	0.3	-4.8
東北	6,408,949	1.4	-6.3 ( -9.7)
関東	58,446,838	12.8	-1.7 ( -6.6)
中部	10,594,567	2.3	-4.9 ( -5.4)
近畿	17,010,674	3.7	-13.3 ( -6.5)
中国	9,717,729	2.1	-4.8
四国	7,317,733	1.6	-0.2
九州	21,502,351	4.7	-0.5

第2表 商品別売上高

商品別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
<b>総 額</b>	<b>456,542,946</b>	<b>100.0</b>	<b>0.7 ( 0.8)</b>
紳士服・洋品	31,980,050	7.0	-0.1 ( -0.3)
婦人服・洋品	93,004,643	20.4	-1.3 ( -1.4)
子供服・洋品	14,501,267	3.2	-2.4 ( -2.4)
その他衣料品	9,355,960	2.0	-4.1 ( -4.9)
<b>衣 料 品</b>	<b>148,841,920</b>	<b>32.6</b>	<b>-1.3 ( -1.5)</b>
<b>身のまわり品</b>	<b>63,008,619</b>	<b>13.8</b>	<b>3.2 ( 3.3)</b>
化粧品	46,239,540	10.1	17.0 ( 17.3)
美術・宝飾・貴金属	27,628,284	6.1	6.6 ( 6.9)
その他雑貨	17,763,926	3.9	-4.1 ( -2.2)
<b>雑 貨</b>	<b>91,631,750</b>	<b>20.1</b>	<b>9.2 ( 9.8)</b>
家具	4,712,241	1.0	-4.7 ( -4.8)
家電	983,241	0.2	1.8 ( 1.5)
その他家庭用品	13,655,083	3.0	-4.6 ( -4.7)
<b>家 庭 用 品</b>	<b>19,350,565</b>	<b>4.2</b>	<b>-4.3 ( -4.4)</b>
生 鮮 食 品	21,222,043	4.6	-4.7 ( -4.2)
菓 子	28,101,552	6.2	-3.7 ( -3.2)
惣 菜	25,990,210	5.7	-3.3 ( -2.5)
その他食料品	31,208,491	6.8	-1.8 ( -1.8)
<b>食 料 品</b>	<b>106,522,296</b>	<b>23.3</b>	<b>-3.3 ( -2.8)</b>
食 堂 喫 茶	12,265,706	2.7	-0.9 ( -1.0)
サ ー ビ ス	5,283,750	1.2	-2.7 ( -3.1)
そ の 他	9,638,340	2.1	0.3 ( 0.1)
<b>商 品 券</b>	<b>9,758,495</b>	<b>2.1</b>	<b>-3.6 ( -5.4)</b>

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

## Ⅱ. 地区別の動き

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向      | 2.5% (店舗数調整後/9か月連続プラス)    |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -3.6% (店舗数調整後/12か月連続マイナス) |

### 【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>10都市</b>	<b>2.5</b>	<b>1.8</b>	<b>9か月連続プラス</b>
札幌	4.0	0.1	3か月連続プラス
仙台	-2.1	0.0	3か月連続マイナス
東京	1.9	0.5	3か月連続プラス
横浜	-0.8	-0.1	9か月ぶりマイナス
名古屋	5.7	0.4	3か月ぶりプラス
京都	4.1	0.2	2か月連続プラス
大阪	9.9	1.3	16か月連続プラス
神戸	-30.6	-0.8	8か月連続マイナス
広島	-2.4	-0.1	19か月連続マイナス
福岡	6.3	0.2	9か月連続プラス
<b>10都市以外の地区</b>	<b>-3.6</b>	<b>-1.1</b>	<b>12か月連続マイナス</b>
北海道	-4.8	0.0	19か月連続マイナス*
東北	-6.3	-0.1	8か月連続マイナス*
関東	-1.7	-0.2	3か月ぶりマイナス
中部	-4.9	-0.1	11か月連続マイナス
近畿	-13.3	-0.5	14か月連続マイナス
中国	-4.8	-0.1	2か月ぶりマイナス*
四国	-0.2	0.0	5か月連続マイナス
九州	-0.5	0.0	5か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

### Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が17か月連続、身のまわり品が4か月連続のプラスとなった。また家庭用品が28か月連続、食料品が11か月連続、衣料品が5か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が37か月連続、美術・宝飾・貴金属が13か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

#### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	<b>0.7</b>	<b>—</b>	<b>2か月連続プラス</b>
紳士服・洋品	-0.1	0.0	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-1.3	-0.3	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-2.4	-0.1	7か月連続マイナス
その他衣料品	-4.1	-0.1	30か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	<b>-1.3</b>	<b>-0.4</b>	<b>5か月連続マイナス</b>
<b>身のまわり品</b>	<b>3.2</b>	<b>0.4</b>	<b>4か月連続プラス</b>
化粧品	17.0	1.5	37か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.6	0.4	13か月連続プラス*
その他雑貨	-4.1	-0.2	12か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	<b>9.2</b>	<b>1.7</b>	<b>17か月連続プラス</b>
家具	-4.7	-0.1	7か月連続マイナス
家電	1.8	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-4.6	-0.1	25か月連続マイナス
<b>家庭用品</b>	<b>-4.3</b>	<b>-0.2</b>	<b>28か月連続マイナス</b>
生鮮食品	-4.7	-0.2	49か月連続マイナス*
菓子	-3.7	-0.2	5か月連続マイナス*
惣菜	-3.3	-0.2	7か月連続マイナス*
その他食料品	-1.8	-0.1	2か月ぶりマイナス*
<b>食料品</b>	<b>-3.3</b>	<b>-0.8</b>	<b>11か月連続マイナス</b>
食堂喫茶	-0.9	0.0	12か月連続マイナス
サービス	-2.7	0.0	5か月連続マイナス
その他	0.3	0.0	4か月ぶりプラス
<b>商品券</b>	<b>-3.6</b>	<b>-0.1</b>	<b>86か月連続マイナス</b>

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで  
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>